

ルーフトップパラダイス出展報告

十二支の街路樹

山崎誠子



卯(うさぎ)の完成品設置風景

はじめに

2008年9月13日から11月30日まで、横浜トリエンナーレと同時に開催されたのがルーフトップパラダイスです。Bank ART Studio NYKの屋上に設けられた空間にアーティストと建築家が集まり、ルーフトップパラダイスというテーマに沿って、作品を展示しました。企画、運営しているみかんぐみの曾我部さんから「山崎さんも何か出しません？ アートな街をつくるので、ランドスケープアーキテクトもいたほうがいいし」と軽く声をかけられ、受けたのが始まり。夏の終わりのイベントでしたが、実は私はこの時期あれこれ忙しくしていたうえ、海外研修旅行でまったく日本にいなかったため、安請け合いましたものの、実質の作業は山崎研究室の4年生と大学院生、協力事務所のGAヤマザキのスタッフが行いました。

作品の内容と制作

アーティスト (tocolo.com さん、岩田とも子さん、他) や、個性的な建築家たち (小泉雅生さん、城戸崎和佐さん、他) が何を出してくるか分からない状態だったため、街をつくるのであれば私のできることは街路樹ぐらいか、いや、ぐらいじゃない、街路樹しかないと思い、作品としました。街路樹は、世界の街では緩衝帯、オアシス、緑陰、四季の変化が楽しめるものとして扱われ、その1本1本はあまり意味をもたず、連続性から生まれる空間がその役割となっています。そこで、街路樹たった1本を見つけてそこに参ると何か良いことがあるような、意味のある植物にしてみました。日本人は古来から、神様を人の形のものだけではなく、石、山、木に神も宿っているかのように崇める風習があります。これは世界的にみても稀なことです。そこで、植物に縁起の良い干支をもちこみました。街のどこかに自分の干支の街路樹があるということです。植物には動物の名前がついているものが数多くありますが、横浜海浜地区の屋上、つまり潮風と直射日光が当たる、植物にとってかなり過酷な環境でも育つものを選択しました。また、屋上に一定期間だけの設置だったため、植木鉢(プランター)に植栽し、研究室の4年生と、大学院の1年生がプランターカバー

も干支をモチーフにデザインしました。干支の形を加工しやすい薄いアルミ板のクッキーの型どりのようなものでつくって大中小と三段に重ね、隙間に土を入れて、砂利で化粧するようにします。制作は夏休み期間中の4階の製図室で行いました。完成したものの、当初の設置場所は通路沿いに均等でしたが、アーティストの作品と干渉しあうとか、ここに置いてはダメなどいろいろあり、現場で変更。都市の中の街路樹も、ここにあると迷惑だと言われることがよくあるので、同じようなことがこんな狭い空間でさえ起きるとは面白いものです。

植物は、子(ねずみ):ネズミモチ、丑(うし):ウシコロシ、寅(とら):イチハラトラノオ、卯(うさぎ):ラビットアイ、辰(たつ):リュウゼツラン、巳(へび):ジャノメエリカ、午(うま):アセビ、未(ひつじ):ピカクシダ、申(さる):サルスベリ、酉(とり):トリモチノキ、戌(いぬ):イヌザクラ、亥(いのしし):イノコシバの12種。

公開と今後

公開は完全予約制で朝9:15~9:50と、夜18:15~19:15の1時間ずつ。バラバラだった作品群がだんだんと時を経ると馴染んできるようになり(表紙参照)、訪れた人は皆面白がっていたそうです。街路樹もすっかり場に馴染み、意味に気がつく人はほとんどいなかったようです。

11月30日にこのイベントは終了しましたが、撤収することが前提で始まったにもかかわらず、残してはどうかという話も出ているようで、屋上の小さな街路樹の意味がいよいよ分かるようになるかもしれません。

(やまざきまさこ・助教)



製図室での制作風景